ISSN 0386-8931

史窓

二〇〇四年二月五日 印刷
二〇〇四年二月十日 発行

第 61 号

目 次

論 文

近世のパスポート体制 …… 柴田 純（1）
——紀州藩田辺領を中心に——

近世菅浦村における地先支配 …… 岸 妙子（53）
——寛保三年地先争論を中心に——

呉虎鼎銘考釈 …… 松井 嘉徳（75）
——西周後期、宣王朝の実像を求めて——

両大戦間におけるロシア極東地方の人口動態 …… 中村 泰三（99）
——囚人移動を中心に——

フランス革命期における政治と美術 …… 貴傳名暁子（113）
——ジャック・ルイ・ダヴィッドの活動を中心に——

書 評

ヒラール・サービー著／谷口淳一・清水和裕監訳『カリフ宮廷のしきたり』
…… 伊藤 隆郎（131）

彙 報 …… （139）

2004・2

京都女子大学史学会

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第５・６合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

彙　報

二〇〇三年度　学会行事

新入生歓迎会

四月三日（木）　新入生オリエンテーション

この新入生オリエンテーションで、新入生とわたしたち史学会委員が初めて顔を合わせました。あどけなさが残る彼女たちを前にして、史学会委員の自己紹介と史学会についての説明を行いました。まだ「大学」という環境に慣れず、緊張した面持ちの新入生たちに、入学したての頃の自分を重ね合わせます。さまざまな希望や不安などがあることでしょう。それを端的に表していたのが、そのあとの質問会です。新入生のみなさんからは単位や授業の選択、また取得資格に関する多様な質問が活発に出され、私たちも答えられる範囲で返答しました。特に取得資格については関心が高いようです。みなさんの大学生活が充実したものになり、この四年間が社会へと羽ばたくための期間になることを心より祈っています。

新入生歓迎バスツアー

四月五日（土）　竜安寺にて

当日の昼休み、先生方を交えての昼食会を開きました。お弁当とお茶を配りながら点呼をとった後、先生方に自己紹介をしていただきました。先生のご専門の話を聞き、新入生は向学心に火がついた様子です。その後、目的地である竜安寺についての解説、及び見所を話していただき、新入生と先生方、わたしたち一行はバスに乗り込み、まずは第一の目的地である西本願寺を目指したのです。

京都女子大学は西本願寺とのご縁が深く、新入生は参拝することになっています。御影堂に参拝し、新入生は入学した実感と喜びに包まれながら、第二の目的地である竜安寺に向かいました。渋滞に巻き込まれるのではないかという心配は杞憂に終わり、予定通り竜安寺に到着しました。竜安寺に行く道中に各々の自己紹介を行い、次第に打ち解けてきた様子の新入生は、バスを降りると早くも仲良くなった友達と行動を共にしています。

竜安寺は石庭が有名であり、また世界遺産にも登録されているため、新入生歓迎バスツアーの日には多くの観光客が訪れていました。人があふれているため落ち着いて竜安寺を拝観できないのでは、という心配もありましたが、石庭を前にすると人々の心は落ち着くようで、静かに鑑賞することができました。方丈や広い境内を皆、思い思いに散策します。ちょうどツツジが美しい頃で、何とも言えず綺麗でした。ここで撮った写真は一生の思い出になることでしょう。

その後、皆さんの協力もあって、五時前には学校に戻ってくることができました。新入生の皆さん、お疲れ様でした。先生方、そして平安観光の田村さん、ありがとうございました。

春季公開講座

五月三十日（金）

井伊直弼の人間像　　本学助教授　母利　美和氏

よみがえるガンダーラ仏教　　富山大学名誉教授　小谷　仲男氏

卒業論文中間発表

日本史専攻　　十月十五日（水）～十七日（金）

東洋史専攻　　十月　八日（水）・九日（木）

西洋史専攻　　十月十四日（火）・十五日（水）

秋季公開講座

十一月十四日（金）

一九世紀アメリカの女性たち―結婚・世帯・家族―　　本学教授　常松　洋氏

里山の語る江戸時代　　京都府立大学教授　水本　邦彦氏

一回生専攻分け説明会

十一月二八日（金）

一回生と先生方の交流をはかりつつ、二回生に向けての専攻分け説明会が昼休みに行われました。各専攻の先生方による説明が行われた後、質問会になりました。

一回生の皆さんは専攻決めに真剣な様子で、予想以上に質問の声が掛かり、学会委員にとっても難しい質問もありましたが、少しでも参考にしていただければと、わたしたちも真剣に応答しました。短い時間ではありましたが、専攻を決定する助けとなれば幸いです。充実した説明会になりました。

卒業生予餞会

十二月二十日（土）

四回生の卒業論文提出締切り日であったこの日、午後六時から祇園『かがり火』にて、毎年恒例の予餞会が行われました。卒業生と先生方が一同に会し、楽しく和やかな雰囲気の中、会が進行します。

卒業論文を無事に書き上げ提出した後の、先輩方の晴れやかな表情が心に残りました。ここに至るまでに、苦しい時期や辛い時期もあったでしょうが、皆さんの表情には喜びしか読み取れません。きっとそれぞれに満足のいく論文ができたことでしょう。この努力をこの先の人生に活かしていかれることと思います。卒業生の皆さん、お疲れ様でした。

早春の学会旅行

三月二六日（金）・二七日（土）

和歌山の名所・旧跡（紀三井寺・道成寺・高野山）と南紀白浜温泉への旅を企画しています。

昨年度は、三月二六日（水）から二七日（木）にかけて、松江・出雲大社・皆生温泉へ行きました。先生方と有志の学生によるこの学会旅行は、私たち学生と先生方との親睦を深める素晴らしい機会でもあります。また回生が違う方とも触れ合うことができる機会でもあります。今回は、因幡万葉歴史館・鳥取砂丘・出雲大社・小泉八雲記念館などを訪れ、

その土地の文化に直接肌で触れることができました。

（高木　泉）

二〇〇三年度　史学科講義題目

史学科共通

講義

史学研究入門A　常松教授
史学研究入門B　柴田教授・谷口助教授
日本史概論A　瀧浪教授
日本史概論B　坂口教授
東洋史概論A　植松教授
東洋史概論B　檀上教授
西洋史概論A　新田教授
西洋史概論B　常松教授
考古学　梶川講師
民俗学　根井講師
日本美術史　山本講師
東洋美術史　竹浪講師
西洋美術史　愛宕助教授
歴史地理学　中村教授
人文地理学　中村教授
自然地理学　相馬講師
地誌学　中村教授

講読

漢文　植松教授・大野・古勝講師
ラテン語　竹中助教授

演習

史学基礎演習A　常松・瀧浪・稲本・植松・柴田教授・谷口助教授
史学基礎演習B　松井・古賀・檀上・坂口・新田教授・母利助教授

日本史専攻

特講

平安京と京都　瀧浪教授
宮城図の成立　瀧浪教授
中世の女性―その職業を通じて　稲本教授
譜代大名井伊直弼の思想形成と政治行動　母利助教授
日本と南米諸国の移民・文化交流　坂口教授
近代日本における平和運動の潮流　坂口教授
自然観の変容　柴田教授
那波活所の思想　柴田教授
日本文化の特性を京都を中心に講じる　山路講師
中世から近世にかけての庶民の年中行事や芸能の歴史を考える　山路講師

講読

日本史講読Ⅰ　坂口教授・母利助教授・中山講師
日本史講読Ⅱ　瀧浪・稲本教授
日本古文書　稲本教授・母利助教授

演習

日本史演習Ⅰ　瀧浪・稲本・柴田・坂口教授・母利助教授
日本史演習Ⅱ　瀧浪・稲本・柴田・坂口教授・母利助教授

東洋史専攻

特講

中国宋・元代の政治と社会　植松教授
朝鮮古代史を考える　田中講師
古代東北アジア史を考える　田中講師
イスラーム時代西アジア政治史―諸王朝の興亡と国家制度の変遷―　谷口助教授
イスラーム時代西アジアの社会と文化　谷口助教授
「中国歴史地理学」入門　木田講師
「中国歴史地理学」研究　木田講師
出土文字史料による中国古代史の再構築　松井教授
中国古代王権の支配機構　松井教授
人びとの中国史　冨谷講師
続・人びとの中国史　冨谷講師

講読

東洋史講読Ⅰ　檀上教授・角谷講師
東洋史講読Ⅱ　植松教授・岡本講師
東洋史講読Ⅲ　檀上教授・松井教授

演習

東洋史演習Ⅰ　松井・植松・檀上教授・谷口助教授
東洋史演習Ⅱ　松井・植松・檀上教授・谷口助教授

西洋史専攻

特講

アメリカにおける飲酒と禁酒運動の展開　常松教授
アメリカにおける禁酒法―その成立と内容　常松教授
いかにしてキリスト教が世界宗教となりえたかをローマ国との関わりから考察する　新田教授
キリスト教ローマ帝国の考察―コンスタンティヌス帝を中心に　新田教授
西洋中世における紛争・紛争解決と国家　服部講師
ヨーロッパの食文化史　山辺講師
近世ポーランド史探訪(1)―ポーランド・ルネサンスの諸問題　小山講師
近世ポーランド史探訪(2)―バロック期からポーランド分割まで　小山講師
バルカン地域の東西文化交流　中村教授
中央アジア、ユーラシア東北部の東西文化交流　中村教授

講読

西洋史講読Ⅰ　古賀・常松教授
西洋史講読Ⅱ　青木講師
西洋史講読Ⅲ　中村講師

演習

西洋史演習Ⅰ　新田・古賀・常松教授
西洋史演習Ⅱ　新田・古賀・常松教授

〔注〕Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特講については、同一担当者が

前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇〇三年度　卒業論文題目

日本史専攻

明星友美子　平安貴族の生活―水を中心に―
浅井　麻里　明治時代初期の新聞について―錦絵新聞から小新聞へ―
安達　明子　明治初年の官費留学生―規則と実態―
飯隈　司　藩主におされた幕末仙台藩の行末
伊藤　泉子　茶花に見る日本的美意識―利休好みの花―
今田　和美　良源の比叡山統治と僧兵の関わり
上田真貴子　矢橋の渡し船
内田　恭子　鬼について―本当に鬼は悪い存在か―
宇都宮真実　越後屋の引札の特質
馬澄　千代　中世武士子どもの教育―北条重時の家訓―
小川智瑞子　菅原道真―配流の真相―
小川　円香　鹿背山城の変遷
香川加奈子　平安貴族における穢
加川　洋子　大仏建立への道
柏井　久美　長屋王邸宅
梶　美織　加賀の豪商木谷藤右衛門
片岡　美保　明治大正期のピアノ―ピアノはどのように見られていたか―
加藤麻百合　お雇い外国人ジュール・ブルュネ
金田　香織　近江屋事件再検証
河野　美緒　岩倉使節団とキリスト教問題―高札撤去に至るまでの外交―
岸本　映美　榎本武揚と蝦夷地開拓
熊手　晴美　『常山紀談』から見る戦国武士像
児島　香織　古代の女帝―誕生と終焉―
牛来明日香　野間清治と雑誌報国―大衆雑誌『キング』を中心に―
佐伯　知美　鉄砲と織田信長
佐久間陽子　奥羽越列藩同盟結成の目的―会庄同盟を中心に―
櫻井　佑子　「幸阿弥伝書」からみる蒔絵師の家系の出現
佐々倉未希　人形浄瑠璃と出版文化
佐藤有利子　幕末・維新期の「主婦学」教育について
佐野美奈子　スローフードと茶―八〇年代～現代の生活から―
猿渡由美子　平安時代の童殿上―その成立と変容―
篠田真由美　昭和天皇の権力―張作霖爆殺事件を通して―
芝野加奈子　絵巻からみる犬と人
渋谷　梓　「辻」と「辻」にまつわる伝承が伝える社会背景とは
進藤　祐子　平家物語にみられる木曽義仲―願文が与えた影響―
末松　里奈　近世における花火の普及
鈴木　絢子　人間は何を恐れたか―古代の死穢観より―
鈴木　桃子　腰巻・ズロース・パンティ―変化する下穿―
高木あゆみ　謙信の上洛
高田　未緒　中世に於ける備前焼の流通
高橋　侑子　京の民衆における御霊信仰の成立と展開
高村　奈央　明治初期の博覧会と美術
瀧本沙知子　後期閑谷学校の史的意義
田中　景子　茶会記に見る戦国武将と町衆の関係と動向―「松屋会記」と「天王寺屋会記」―
田中　祐子　仏教受容に際する大王及び諸氏族の立場
棚村　益香　鳥取藩「在方諸事控」にみる子どもの存在状況
中尾知永子　尚侍考―平安時代を中心に―
中曽みどり　日本映画における女優の誕生について
中村美ゆき　ぼんぼん―松本地方の女児の盆行事―
中山　留美　もう一つの大化改新―中大兄皇子の皇位への道―
名村木綿子　姓名録から見る適塾の人々
西田　奈未　時代の狭間での宗教ブーム―「靈宇」にみる宗教活動―
平井美也子　中世公家の「家」の分立―藤原摂関家と天皇家の二分化―
平岡真知子　第五回内国勧業博覧会と諸外国招致
平田　樹里　奏事に見る院の国政運営
福下　愛美　宇佐八幡神宮弥勒寺の成立
藤野まゆみ　女子大学紛争―大学史から見るその特質―
北條由佳里　曾根崎心中から見る近世町人の意識
細井　宏恵　ブラックプロパガンダ―戦争の中のラジオ―
堀　妙子　准母立后制について
丸谷　美香　近世江戸の稲荷信仰―江戸の都市化と稲荷の変容―
南　かおり　桓武朝における「外戚」としての百済王氏
宮崎　陽子　平安京の成立―嵯峨天皇を中心に―
村重さやか　四国遍路―弘法大師信仰と民衆の活動―
森　宏美　アイヌ民族と東本願寺―布教による同化政策―
森　祐子　いのち短し乙女たちの実態―雑誌『女学世界』を通して―
山下　早紀　幕末桑名藩の動向と決断―柏崎行きの背景に迫る―
若松　有希　紀州藩の刑罰―城下町警察日記を素材に―
渡邊　紗良　近世初期の殉死

東洋史専攻

石田万都理　宋代の都市と飲食文化
大川　沙織　明代嘉靖期の鎮守宦官対策と北辺防衛
貝野　尚子　南宋期の女子財産権について
鎌田真由美　唐代の皇居・皇太后について

亀井　綾香　清末民初思想論争—張之洞、梁啓超を中心に—
木村　綾香　明末の風俗と馮夢龍—三言を通してみた—
児島まどか　宋代商人の活動から見た商品流通—牙人を中心として—
小柳　妙子　明初中書省体制の確立とその意義—明朝政権の成立過程からみた—
坂本　浩美　中国船の海外進出と黄巣の乱
澤井　幹子　中国古代の崑崙伝説
下原　由香　清代道光期における鴉片問題—雲南省を例として—
高木　史恵　北京における演劇の隆盛—乾隆期の演劇政策を中心に—
高瀬　歩　中国服装史における唐代女性の服装
中西　梨恵　唐代における浄土教の宣布と受容
日原　陽子　晏陽初の識字教育運動—その発展と問題点について—
前田　貴子　曹操政権における荀彧
町田　あや　政策からみる宋徽宗の評価
丸田　佳奈　琉球王国の成立と渡来中国人—閩人三十六姓の下賜をめぐって—
三木　真穂　万暦初頭の政治改革と張居正—考成法を中心に—
八木めぐみ　中国の外交—文化大革命期の「革命外交」を中心に—
安田　亜希　王墓から見る南越国とその文化
山崎　智子　『史記』から見る司馬遷の思想
山下　舞子　漢代における黄河の治水
山田　淳子　唐長安城と王朝儀礼—元会儀礼を中心に—

西洋史専攻

芦澤　清江　メソポタミア世界の宗教—ジグラットを中心に—
石川　裕子　古代ローマ都市の性格—ブリタニア州・ガリア州を中心に—
伊豆蔵舞子　クレオパトラ—対ローマ政策を中心に—
伊藤　眞弓　イギリス近代のパブリック・スクール
稲葉　友美　ポンパドゥール夫人の功績—啓蒙思想家たちへの庇護を中心に—
岩本　陽子　小プリニウス—「パックス・ロマーナ」期に生きた一貴紳—
織田真奈美　ヴェルサイユとルイ一四世
勝田　順子　ポエニ戦争　ハンニバルをめぐって
木村　千絵　ソ連邦の崩壊
坂口　温子　母としてのエレアノール・アキテーヌ—リチャード獅子心王とジョン失地王—
瀬頭　知子　ジャンヌ・ダルクをめぐる二つの裁判
武本　麻衣　Pax Romana 期における円形闘技場の意義—剣闘士競技を中心に—
玉城　湖澄　青年アイルランド派とアイルランド・ナショナリズム
辻井　潤　ハンザ都市　リューベック
椿　良子　二月革命前夜—パリの労働者を中心に—
徳永亜希子　フランス中世における貴族女性—土地所有を中心に—
中神　聡美　ボルジア家—アレクサンデル六世とチェーザレを中心に—
中田　智子　ルイ一五世の治世—絶対王政の衰退—
夏目　直子　パトリックのアイルランド来訪—アイルランドのキリスト教化について—
西村　明子　シャンパーニュの大市形成—西欧中世初期社会経済の一考察として—
畠山あゆみ　マカーブル的主題にみる死の観念—ヨーロッパ中近世における—
原田　彰子　カピチュレーションとオスマン帝国の衰退
平野　もも　黒死病大流行とイングランド
福池　弥生　第一次世界大戦前夜の民主主義—セルビアとオーストリア—
福士　真那　一四世紀フランスの都市民蜂起—エチエンヌ・マルセルの市民的革命をみる—
藤本　依里　王国の分割相続と王権の弱体化—メロヴィング朝フランク王国の場合—
佛生　瑠美　一六〇五年火薬陰謀事件の検証
法貴　園子　中世ヨーロッパを生きた騎士
穂刈　翔子　征服者コルテスとアステカ王国の滅亡
松原　絢子　モリスとバーン＝ジョーンズにみるヴィクトリア朝の芸術と社会
内尾　朋子　カデシュの戦い—エジプトとヒッタイトの確執と融和—
三井　里美　一八四八年におけるドイツ・ナショナリズム
米谷　英恵　アルベルト・シュペーア—建築家として、軍需相として—

二〇〇三年度　大学院文学研究科

史学専攻博士前期（修士）課程講義題目

特論

古代都市形成論　瀧浪教授
平安京の研究　瀧浪教授
中世伊勢神宮領の研究　稲本教授
戦国期の社会　稲本教授
近世武家社会の構造　母利助教授
※日本人の南米移住の史的展開　坂口教授
※日本人の植民地移住　坂口教授
日本近現代史特論　高橋講師
近世前期の社会と思想　柴田教授
※日本文化史特論　山路講師
日本古文書学特論　下坂講師
中国古代中世史特論　松井教授
元代沿海地域社会の諸問題　檀上教授
明代沿海地域社会の諸問題　檀上教授
中国社会史特論　植松教授
※人びとの中国史　冨谷講師
※続・人びとの中国史　冨谷講師
※「中国歴史地理学」入門　木田講師
※「中国歴史地理学」研究　木田講師

ユーラシア民族文化史特論　谷口助教授
※バルカンにおける東西文化交流　中村教授
※中央アジア・北東アジアの東西文化交流　中村教授
古代ギリシア・ヘブライの理想国家像と紀元二世紀のローマ帝国　新田教授
古代ギリシア・ヘブライの理想国家像と紀元四世紀のキリスト教ローマ帝国　新田教授
※西洋中世における紛争・紛争解決と国家　服部講師
イギリス急進主義と民衆史　古賀教授
チャーティズムと民衆史　古賀教授
アメリカ現代政治史　常松教授
アメリカ大衆社会論　常松教授
※ヨーロッパの食文化史　山辺講師
※近世ポーランド史探訪　小山講師

（※は学部共通）

演習

日本史演習Ⅰ・Ⅱ　瀧浪教授
日本史演習Ⅲ・Ⅳ　稲本教授
日本史演習Ⅴ・Ⅵ　母利助教授
日本史演習Ⅶ・Ⅷ　柴田教授
日本史演習Ⅸ・Ⅹ　坂口教授
東洋史演習Ⅰ・Ⅱ　松井教授
東洋史演習Ⅲ・Ⅳ　植松教授
東洋史演習Ⅴ・Ⅵ　檀上教授
東洋史演習Ⅶ・Ⅷ　谷口助教授
西洋史演習Ⅰ・Ⅱ　新田教授
西洋史演習Ⅲ・Ⅳ　古賀教授
西洋史演習Ⅴ・Ⅵ　常松教授

〔注〕特論については、題目が示されている科目は題目を掲げ、示されていない場合は科目名を記した。同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。その他は前後期共通。

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

日本史特殊研究Ⅰ　瀧浪教授
日本史特殊研究Ⅱ　稲本教授
日本史特殊研究Ⅲ　中山講師
日本史特殊研究Ⅳ　坂口教授
日本史特殊研究Ⅴ　柴田教授
東洋史特殊研究Ⅰ　松井教授
東洋史特殊研究Ⅱ　植松教授
東洋史特殊研究Ⅲ　檀上教授
東洋史特殊研究Ⅳ　谷口助教授
西洋史特殊研究Ⅰ　新田教授
西洋史特殊研究Ⅱ　古賀教授
西洋史特殊研究Ⅲ　常松教授

二〇〇三年度　大学院修士論文題目

川崎　理恵　近世庶民と暦―『古谷道庵日乗記』から読み解く―
木本　久子　藤原氏とその「家寺」―極楽寺から浄妙寺へ―
永盛　恵　賜姓源氏の存在形態―誕生とその変遷―
（以上日本史）
田中久美子　フランス革命におけるヴァンデ戦争
長谷川真希　フランス革命における新聞と政治―革命初期の保守派新聞の役割を中心に―
宮本　雪絵　エトルリア文明の起源と展開―その特質と由来―
（以上西洋史）

二〇〇三年度　大学院行事

研究発表会・その他

四月二五日　大学院歓送迎会（中国食彩館「寶」にて）

六月　四日　第一回定例研究会
ウェスパシアヌスの治世　M1　紙子沙弥香
中世スコットランドの王位継承慣行とマクベス　M1　小谷美記子
フランク・ロイド・ライト　M1　末浪　聡子
近代殖産興業期に於ける窯業の方向性―信楽焼に見る―　M1　桝村　麻貴
近代の公衆衛生システムについて　M1　吉川　芙佐
術数学の系譜　D1　馬場理恵子
元代の漕運について　M1　遠藤あかね
清末の不纏足運動と女性　M1　井上　麻美

七月　九日　第二回定例研究会
近世庶民と暦―『古谷道庵日乗記』から読み解く　M2　川崎　理恵
極楽寺の成立　M2　木本　久子
賜姓と臣籍降下　M2　永盛　恵
エトルリア芸術から見るエトルスキの心性　M2　宮本　雪絵
フランス革命におけるヴァンデ戦争　M2　田中久美子
ルイ一六世裁判と諸党派・世論　M2　刀谷　文子

一月　十日　第三回定例研究会
明治期讃岐糖業の動向　特別研修者　宇佐美尚穂
幕末の上海渡航について―千歳丸、健順丸の派遣を中心に―　研修者　松本　郁美
明清期長江三峡における航道整備事業とその傾向　研修者　森永　恭代

修士論文中間発表会

十一月十日（月）

元代茶政の一考察　M3　宮崎　美幸

フランス革命におけるヴァンデ戦争　M2　田中久美子

ルイ一六世裁判と諸党派・世論　M2　刀谷　文子

十一月十三日（木）

エトルリア起源における問題　M2　宮本　雪絵

近世庶民と暦―『古谷道庵日乗記』から読み解く―　M2　川崎　理恵

極楽寺と浄妙寺　M2　木本　久子

賜姓源氏の存在形態　M2　永盛　恵

研究室だより

京都女子大学史学科では、二〇〇三年四月、母利美和（もり・よしかず）助教授を新しくお迎えしました。母利助教授のご専門は日本近世史で、彦根城博物館に長く勤務されていましたので、井伊家ゆかりの文物に精通されております。古文書史料を中心に、実際の文物を手にとりながら歴史的な想像力を養うことをめざされており、本学科では日本史講読、古文書学や演習Ⅰ・Ⅱを担当されます。

今年度の史学科スタッフは総勢十四人です。このほかに史学科事務員として松井絵里子さんが配属されました。

二〇〇三年五月一日現在の史学科在籍者数は以下の通りです。

一回生　一四一、二回生　一六一、三回生　一四三、四回生　一二六、五回生以上　六

大学院の在籍者数は以下の通りです。

博士前期課程　十六（M1　七、M2　六、M3　三）

博士後期課程　二（D1　一、D2　一）

特別研修者　三、研修者　十二

今年度も多くの先生方に非常勤講師として授業をご担当していただいております。例年どおり非常勤の先生方との懇親会を、五月十六日「洛匠」にておこないました。

公開講座、卒論中間発表等につきましては、別項をご参照ください。

今年度の学会旅行は、二〇〇四年三月二六、二七の両日、和歌山県高野山方面へ出かけることになっています。

なお、史学科教員による著作は以下の通りです。

中山清『千町歩地主の研究（Ⅳ）―確立期における地主的土地所有の構造と展開―』（京都女子大学研究叢刊三六、二〇〇三年一月）。本書は昨年度退職された中山清先生の著作で、地主王国新潟にみる巨大地主制度の確立過程を膨大な史料と統計表によって論じたものです。

また京都女子大学東洋史研究室編『東アジア海洋域圏の史的研究』（京都女子大学研究叢刊三九、二〇〇三年九月）が刊行されました。本書は、史学科の教員（植松正、永田英正、檀上寛、坂口満宏）を中心に、関西大学松浦章氏、滋賀県立大学田中俊明氏、中国社会科学院近代史研究所張徳信氏らの協力を得て進められた研究成果をまとめたものです。巻末には現地調査の記録とともに六十枚におよぶ史跡遺跡写真集が収められています。

（史学科主任・坂口満宏）

学会委員

二〇〇三年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長　東洋史三回生　井田　美幸

副委員長　日本史三回生　飯村　恵美

会計　東洋史三回生　今井　深希

書記　日本史三回生　高木　泉

日本史二回生　田中麻理衣

東洋史二回生　浦田　真美

東洋史二回生　田原　靖子

東洋史二回生　松原　奈美

西洋史二回生　高野　千佳

一回生　越野　綾

一回生　佐々木瑞穂

一回生　永田かが里

一回生　西川　真由

一回生　林　桃子

お知らせ

前号の彙報欄でお知らせしたとおり、本誌では、今号より国立情報学研究所が進めている大学紀要類の電子化による公開事業に参加いたします。これにより、著作権上問題のある部分を除き、表紙を含む本誌全頁がインターネット上で閲覧できるようになります。

電子化による公開の前提条件として、掲載内容の著作権が著者個人ではなく、発行者（京都女子大学史学会）に帰属していることが必要となります。そのためには著作権帰属先である本会の性格を明確にしなくてはならず、会則と『史窓』に関する規約を全面的に見直すことになりました。二〇〇二年末から改訂作業を進め、二〇〇三年三月二十日に本学史学科共同研究室において総会を開き、左記のとおり新会則と『史窓』の新規約を決定いたしました。

京都女子大学史学会は、発足以来、学生が中心になって運営するという形をとってきましたが、発足から半世紀の間に状況は大きく変化しました。特に『史窓』の編集に関しては、ほぼすべての作業が教員によっておこなわれているのが実状です。今回の措置は、会則を本会の現状に合致するよう改めるためのものであり、これによって本会の活動内容が昨年度までと大きく変化するわけではありません。今後とも本会の活動に対する皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

京都女子大学史学会会則

（二〇〇三年三月二十日制定）

（名称）
第一条　本会は、京都女子大学史学会と称する。
（事務局）
第二条　本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。
（目的）
第三条　本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学界に寄与することを目的とする。
（会員）
第四条　本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。
（事業）
第五条　本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
1　機関誌『史窓』の発行。
2　講演会、研究発表会。
3　その他必要な事業。
（代表）
第六条　本会に代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。
（委員会）
第七条　『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。
1　編集委員長　一名
2　編集委員　若干名
（総会）
第八条　本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。
（事業費）
第九条　本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもってこれに当てる。
（会則の改廃）
第十条　この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。
附　則　この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

（二〇〇三年三月二十日制定）

第一条　京都女子大学史学会（以下「本会」という）は、機関誌として『史窓』（以下「本誌」という）を刊行する。
第二条　本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。
第三条　原稿は、未発表のものに限る。
第四条　本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。
第五条　執筆要項などの細則は、別に定める。
第六条　この規約の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を得て実施する。
附　則　この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

後世から見て歴史の転換点にいた人たちはどのように感じ、考えていたのでしょうか。四七六年、西ローマ皇帝、ロムルス・アウグストゥルスを廃位したオドアケルは、自分が新しい歴史の扉を開いたと感じていたように思えます。では、一二一五年、国王ジョンにマグナ・カルタへの署名を強制した諸侯は、どうだったでしょうか。ただ、これで自分たちの特権が守られたとしか考えていなかった可能性もあります。さらに、一七七六年、独立宣言に署名したアメリカ革命の指導者（の少くとも一部）になると、大逆罪で処刑される悪夢にうなされていたのではないでしょうか。

このようなことを考えるのも、現在、二一世紀初頭が明らかに、歴史の重要な転換点に他ならないからです。いまわれわれが抱いているこの認識がたとえば百年後、さらには千年後に大幅に修正されていることはないでしょう。それがどのような転換点なのか、アメリカの一国支配がさらに強化されてゆく里程標になったのか、世界規模でのテロリズムの幕開けを記したのか、あるいは、喜ばしいことに平和と国際協調への序幕になったのか、それは現時点ではわかりません。しかし、いずれにせよ、現在の状況は、感情や根拠脆弱な「情報」に惑わされることなく、自らの価値観に立脚しつつ、しかも冷静で客観的な判断を下すことを、われわれ歴史研究者に要求するものでしょう。

歴史研究は、ますますその重要性を増しつつあるなどと大上段に振りかぶった発言をしようとは思いません。むしろ、自戒を込めてこのように思い巡らしている次第です。

（常松　洋）

執筆者紹介

柴田　純　本学教授

岸　妙子　本学大学院特別研修者

松井　嘉徳　本学教授

中村　泰三　本学教授

貴傳名暁子　本学大学院研修者

伊藤　隆郎　京都大学研修員

（掲載順）

編集委員

常松　洋（委員長）

母利　美和

谷口　淳一

史　窓　第61号

二〇〇四年二月五日　印刷
二〇〇四年二月十日　発行

編集　『史窓』編集委員会

発行　京都女子大学史学会
京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
☎（〇七五）五三一―九一一一
代表者　坂口　満宏

印刷　株式会社図書印刷同朋舎
京都市下京区中堂寺鍵田町二
☎（〇七五）三六一―九一二一

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 61 February 2004

Contents

Articles

SHIBATA Jun, The Passport System in Early Modern Japan ····· (1)

KISHI Taeko, A Dispute over Shoal Area of Lake Biwa in the Early Modern Age: A Case Study of *Sugaura* 菅浦 Village in 3 *Kanpo* 寛保 ···· (53)

MATSUI Yoshinori, Studies on *Wuhu Ding* ····· (75)

NAKAMURA Taizo, The Population Changes in Russian Far East in the Interwar Period ····· (99)

KIDENA Akiko, Politics and Art in the French Revolution: On the Role of Jacques-Louis David ····· (113)

Book Review

Hilāl al-Ṣābi', trans. by TANIGUCHI Junichi, SHIMIZU Kazuhiro et al., *Karifu Kyūtei no Shikitari (Rusūm Dār al-Ḫilāfa)* (ITO Takao) ···· (131)

Miscellanea ····· (139)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931